

# 社会人基礎力を考慮した携帯電話対応型 e ポートフォリオ Mobile e-portfolio for Basic Social Competency

近藤 伸彦 (Nobuhiko KONDO)

CELL 教育研究所研究員 (CELL Research Center for Educational Development)

社会人基礎力の育成は、本学の使命のひとつである。本学が独自に定める評価基準である“C-PLATS”のコンセプトに基づく社会人基礎力の育成をめざし、“C-PLATS”への意識付けを支援する e ポートフォリオシステムを開発した。本システムは、本学の開発・導入している携帯電話対応型 LMS「確認くん」の一機能として実装され、学生は授業において身につけた事柄を“C”“P”“L”“A”“T”の各項目に対応させて記録する。本論文ではシステムの概要を紹介し、2009 年度春学期における 1・2 年次必修科目での実践的導入の結果を報告する。

キーワード：e ポートフォリオ、携帯電話対応型 LMS「確認くん」、社会人基礎力

## 1. はじめに

社会人基礎力が高い人材の育成・教育はその必要性が広く認知され、多大な関心が寄せられつつある。経済産業省が平成 17 年 7 月より開催した「社会人基礎力に関する研究会」では、昨今のビジネス・教育現場を巡る環境変化などから職場で求められる能力を考察し、「組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」として社会人基礎力を定義している<sup>(1)</sup>。ここでは社会人基礎力の構成要素として、「前に踏み出す力 (Action)」「考え抜く力 (Thinking)」「チームで働く力 (Teamwork)」の 3 つの力 (ATT) が考えられている。本学は社会人基礎力を測る指標として“C-PLATS”の独自コンセプトを掲げ、全学的にこれを意識した取り組みを行っている。

一方、学習成果や作品のデジタルデータを Web 上に蓄積する e ポートフォリオと呼ばれるシステムが近年大きな注目を浴びている。e ポートフォリオは、データの蓄積に物理的制約がないこと、蓄積したデータの検索や共有が容易なことなど、紙媒体を基本とするポートフォリオにはない多くの利点を持ち、導入と運用を始めている教育機関も多い。

本学では 2008 年度より携帯電話対応型 LMS「確認くん」を開発・導入した。「確認くん」は学生 1 人あたり週平均 4.2 回のアクセスがあるなど、学習支援に有用なツールであることを実践的に示した<sup>(2)</sup>。そこで 2009 年度からは「確認くん」の一機能として e ポートフォリオを実装し、1・2 年次必修授業への導入を行っている。この e ポートフォリオでは、毎回の授業において気づいたことや身につけたことを、社会人基礎力の指標“C-PLATS”の項目へ対応づけて入力を行う。日々の学習内容と社会人基礎力との結びつきを学生自身に考えさせ、社会人基礎力に対して意識的な学習習慣をつけることを狙っている。

本論文では、2009 年度春学期の初年次および 2 年次必修科目の毎回の授業における本システムの実施結果をまとめ、社会人基礎力への意識付けや学習支援という観点における本システムの有用性と今後の方向性について検証する。

## 2. C-PLATS

本学は、大学の使命のひとつとして、『大手前大学は、ひろく複合的領域を学習できる“リベラルアーツ”型教育のなかで、学生が「自分で創る専門性」を習得するためのきめ細かな支援を行います。同時に、学生が新たな時代を生き抜くための「社会人基礎力」を身につけるよう、あらゆる機会を通じてバックアップします』と宣言している。この「社会人基礎力」育成のための指針として、学生一人ひとりが身につけるべき「社会人基礎力」の必須項目である“C-PLATS”というコンセプトを掲げている。“C-PLATS”は、以下の 6 項目の頭文字をとったものとして定義される。

- Creativity (創造力) : 既成概念に縛られず新しいものを生み出す力
- Presentation (プレゼンテーション能力) : 自分が伝えたい事を効果的に表現する力
- Logical Thinking (論理的思考力) : 論理的なものごとを考える力
- Artistic Sense (芸術的感覚) : 美しいものを理解し、生み出す力
- Teamwork (チームワーク) : 人間関係を大切にしながら、主体的に行動する力
- Self-control (自己コントロール力) : 自分自身をコントロールする力

各項目は基礎・応用・発展の 3 レベルが設定され、それぞれ 1~2 年次までに達成すべきもの、卒業までに達成すべきもの、より発展的なものをあらわす。なお、“Self-control”の項目については、大学生と

して身につけていて当然の能力であるのでレベルを設定していない。本学のすべての授業では、大学生活全般を通して身につけるべき“Self-control”の項目を除いた5項目の育成を意識したカリキュラムに基づき授業運営がなされている。以下、この5項目を“CPLAT”とよぶ。

### 3. 携帯電話対応型 e ポートフォリオ

#### 3.1. 携帯電話対応型 LMS「確認くん」

本学では、学生の自主学習を支援するための LMS「確認くん」を独自開発している。学生は「確認くん」を通して出欠状況や課題提出状況といった学習状況を把握できる。2008年度は「確認くん」を初年次必修科目「日本語表現」「英語表現」「情報活用」において活用し、1人あたり週平均4.2回のアクセスがあるなど学生自らが学習状況を把握する習慣をつけることに成功している<sup>2)</sup>。「確認くん」は PC・携帯電話の両方から閲覧可能であるが、7割以上のアクセスが携帯電話からのものであった。

2009年度は初年次必修科目「フレッシュマンセミナー（以下 FS）」および2年次必修科目「基礎演習」においても「確認くん」を導入している。

#### 3.2. 「確認くん」の一機能としての e ポートフォリオ

「確認くん」が学生の学習スタイルの一部となっていることから、「確認くん」の一機能として e ポートフォリオを実装しこれを「確認くんブログ」と名付けた。

学生の入力手順を図1に示す。科目、年度、学期、授業回をそれぞれ指定すると入力ページへ遷移する。学生はその授業において身につけたことや気づいたことを、“CPLAT”の5項目に対応させて入力する。授業で取り組んだ内容が“CPLAT”のいずれに対応するかについて教員は明示的に指導せず、あくまで学生自身が考えて入力する。“CPLAT”のいずれにも該当しない内容については「その他」欄へ入力する。学生の入力例を図2に示す。

#### 3.3. 毎回の授業における記録

先述の必修5科目の授業では、授業終了前の5分間を利用して e ポートフォリオへの入力活動を行っている。PC を利用する授業においては PC で、利用しない授業においては携帯電話で入力を行う。ただし、通信料等の問題で携帯電話を利用しない場合、記録内容を紙に記しておき、授業後に PC にて入力することとしている。記録作業が毎回の授業にて行われることで、新鮮な学びの記録を細かく蓄積できる。

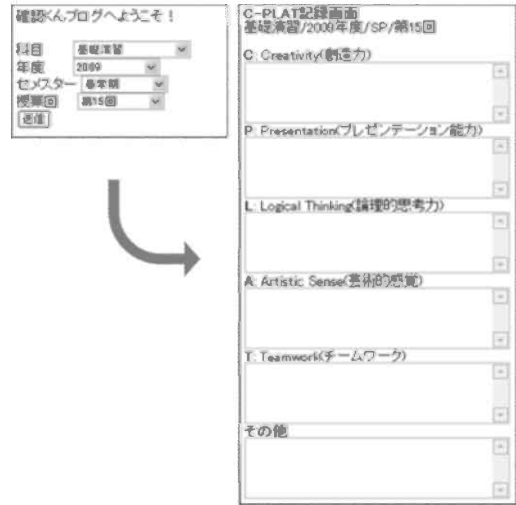


図1 入力画面

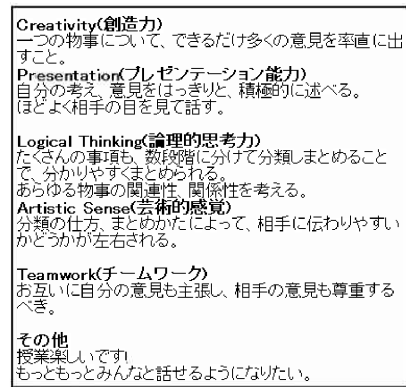


図2 学生の記録例

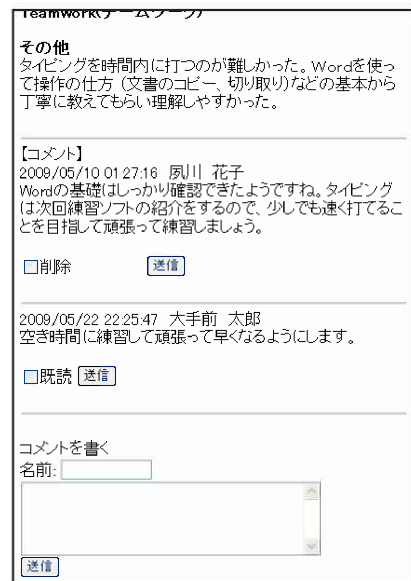


図3 教員のフィードバック

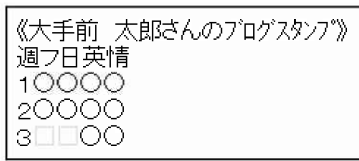


図 4 スタンプ表示

### 3.4. コメントによるフィードバック

単に学生自身が記録を残すだけでなく、教員やチューターは学生の記録に対し「コメント」をつけてフィードバックを与えることができる。フィードバックのようすを図 3 に示す。コメントは「確認くん」の教員用管理画面から行うことができる。また、教員やチューターからのコメントに対し、学生がさらにコメントを返答することも可能である。このようなフィードバックの連続は、学びを深めるだけでなく、学生と教員・チューター間のコミュニケーションを生み、適切な学習支援のきっかけとなったり、学習へのモチベーションを高めたりすることにもつながると考えられる。

### 3.5. スタンプによる可視化

学生が入力済みかどうかは「ブログスタンプ」という概念で管理される。この「ブログスタンプ」は「確認くん」に表示される。スタンプ表示のようすを図 4 に示す。これは記録を残したことの証であり、蓄積した記録の分量を可視化できる。

## 4. 実施結果

### 4.1. e ポートフォリオへの記録率

図 5 に e ポートフォリオ記録率の推移を示す。ここでの記録率とは、毎回の授業における出席者に対する e ポートフォリオ記録者の割合である。図 5 には 5 週ごと（ベーシック必修科目ではこの区切りをタームと呼ぶ）の平均記録率を示している。

教員によって e ポートフォリオへの取り組みせかたや意識に多少の差異があることや、第 2 ターム以降は接続障害などで授業中に入力できず授業後に書かざるを得ないことも多かったことなどから、記録率は減少傾向にあるが、その減少率は落ち着きつつある。e ポートフォリオを通じて授業の振り返りを毎回行うという習慣が定着した学生も多い。

### 4.2. 記録率と学習効果

記録率と学習効果の関係について、情報活用春学期の成績と同科目ポートフォリオ記録率の関係を調べたところ、成績と記録率の間には相関がみられた。記録を行うことが成績の向上の要因になるというわけではないが、成績が良好である学生ほど、毎回の授業という小さなサイクルで学習の振り返りを行う習慣ができていることがわかる。

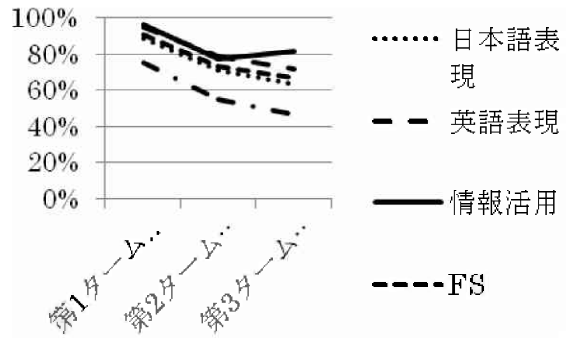


図 5 e ポートフォリオ記録率の推移

表 1 成績別記録率

成績	記録率 (平均)
A	90.1%
B	79.6%
C	71.1%
D	55.4%

### 4.3. 項目ごとの記録率

“CPLAT” および「その他」の計 6 項目の記録比率を図 6 に示す。グループワークが多くコミュニケーション能力を高めるカリキュラムが組まれている「フレッシュマンセミナー」では P (プレゼンテーション能力) や T (チームワーク) の項目の比率が、パラグラフライティングの練習等を取り入れた「日本語表現」では L (論理的思考) の比率が他科目に比べてそれぞれ高いなど、科目の特性に合わせて記録比率に特徴が見られる。初年次科目「フレッシュマンセミナー」「日本語表現」「英語表現」「情報活用」では「その他」の項目への入力が多く“CPLAT”への分類が十分にできていないのに対し、2 年次の「基礎演習」では“CPLAT”の 5 項目への入力比率が高くなっている。授業で身についたことと“CPLAT”との関連性をより深く考えることができていると考えられる。

### 4.4. 記録のタイミング

5 科目それぞれにおける授業内記録率を表 2 に示す。PC を使用しない授業においては授業内に記録する手段は携帯電話のみであり、1 年次においては少なくとも 60% 近くの学生が授業中に携帯電話で入力を行っていることになる。

### 4.5. 学生アンケート

学期末にはベーシック必修科目のプログラムに関して学生アンケートを実施した。このアンケートでの「確認くんブログでの先生からのコメントはどうでしたか？」という質問に対する回答の一部を以下に示す。

- ただ記録だけでなく、コメントが返ってくるのは嬉しい
  - ひとりひとりに先生が返信してくれるのでとてもありがたい
  - 毎回返してくれて嬉しかった。すごくやる気が出た
  - もう少しコメントがほしかった
  - 授業によって役立つものと役立つものがある
  - 英語は毎回コメントがもらえるが、他の教科はコメント無しが多いので書く気が失せる
- このように、教員からのコメントがeポートフォリオの入力に対するモチベーションとなっている例が多く見られた。

また、「確認くんブログでの先生からのコメントはどうでしたか?」という質問に対する回答の一部を以下に示す。

- 自分の意見を書くことができ、良かった
- “CPLAT”のいまいちどれか分かりづらく、記入する項目が偏ってしまう
- 自分がどういうところを理解できたのかできなかったのか考えることができたのでよかった
- 何を書いたら良いのかいまいちわからない
- “CPLAT”の何を意識してきたのかがわかって、よかった

ここからわかるように、“CPLAT”への意識付けはまちまちである。意識付けをより深くするには、学生に項目の判断をすべて任せるのではなく、授業の中で注目すべき項目を示唆することが必要であると考えられる。

### 5. おわりに

本論文では、社会人基礎力への意識付けを考慮した携帯電話対応型eポートフォリオである「確認くんブログ」についての紹介と実践報告を行った。

記録の習慣化ができつつあることやフィードバックの重要性が明らかになった一方で、“CPLAT”への意識付けには課題が残った。これを踏まえ、秋学期からは授業中に教員が“CPLAT”のいずれに焦点

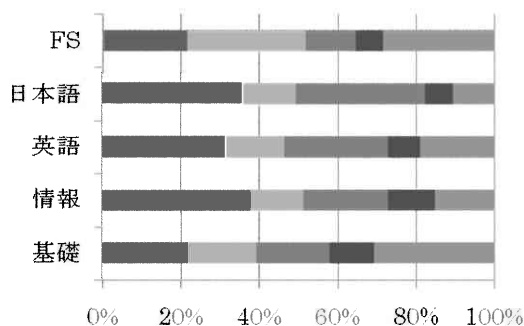


図6 項目ごとの記録率

表2 授業内記録率

科目	授業内記録率	授業形態
ルッシュマンセミナー	58.7%	PCを使用しない
日本語表現	56.1%	PCを使用しない
英語表現	73.6%	PCを使用する (しない週もあり)
情報活用	80.8%	PCを使用する
基礎演習	8.6%	PCを使用しない

を当てるかを明示し、“CPLAT”の項目への入力を促している。その結果、「その他」ではなく“CPLAT”の項目への入力が増えつつある。このように、より“CPLAT”を意識した記録が行われるような工夫を加え実施していく予定である。

### 謝辞

本論文は大手前大学コア教育チームの取り組みをまとめたものである。チームメンバーである奥田雅信氏、本田直也氏、石毛弓氏、中島彰子氏、毛利美穂氏をはじめ、学習支援センターの皆様には謝意を表す。

### 参考文献

- (1) 経済産業省経済産業政策局産業人材政策室(2006)「社会人基礎力」について、<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (参照日 2009.9.28)
- (2) 本田直也, 近藤伸彦 (2009) 入学前および初年次学生の全員が頻りにチェックする携帯電話向けLMS, 日本リメディアル教育学会第5回全国大会発表予稿集, 113-114頁。

### SUMMARY

An e-portfolio system has been developed for cultivation of basic social competency based on the concept of "C-PLATS" which is evaluation criteria for basic social competency. The system has been implemented as one of the functions of the LMS named "Kakunin-kun".

Students record their own awareness or acquired knowledge and skills corresponding to items of "C-PLATS". In this paper, the outline of the system is explained and the results of introduction of it in compulsory subjects of the first and the second year are reported.

**KEYWORDS:** E-PORTFOLIO, BASIC SOCIAL COMPETENCY, MOBILE LMS "KAKUNIN-KUN"